

# 豆 狸 の 寝 言

副会長 三原幸二

先日ある会合があった。丁度昼時にあたる時間に開催されるため、会社を出る前に食事を取るには早すぎるし、だと言って会議が終わってからでは腹が持ちそうにない。困った困ったと思いながら会議場に着いたところ、軽食なら取れる時間があった。2階の喫茶室へ行ってメニューを見ると、サンドイッチにコーヒーか紅茶が付いたセットが800円であったので、それを頼むことにした。ただし、コーヒー、紅茶は利尿作用があり会合の途中で何回も抜けるのもかなわないので、飲み物は牛乳を頼むことにした。

女店員にそのように頼んだところ差額料金を頂きますとのこと。分かりました、それではいくらお支払すればよいのですか、とメニューを見せてもらったが、牛乳もコーヒーも紅茶も同じ400円。どこに差額があるのか分からない。困った女店員は少々お待ち下さいと言って下がっていき、しばらくして今度は年配の男性がやって来た。もう一度価格表を見せてもらったが、サンドイッチが600円、コーヒー、紅茶、牛乳が400円、男性店員は色々と言っているがまったく要領が得ない。



時間が経つばかりで気が急くので、サンドイッチと牛乳を頼み、冷蔵庫から出したてのような冷え切ったサンドイッチを食べ、1,000円なりを払って退散。無事、会合にはセーフ。

セット料金はお客に対するサービスか店側にとって利益の生じるシステムか、そんな事を考えさせてくれるちょっとした出来事でした。

セット料金には理解し難い意味合いがひそんでいる様です。ゆっくりと冷静に考えてみることにします。

(つまらん一話) 2008年執筆